

科目コード／科目名 (Course Code / Course Title)	EX597／法学基礎演習 (Introductory Seminar on Law)		
テーマ／サブタイトル等 (Theme / Subtitle)	国際法の視点から国際問題を考える		
担当者名 (Instructor)	鈴木 孟(SUZUKI TAKESHI)		
学期 (Semester)	秋学期(Fall Semester)	単位 (Credit)	2単位(2 Credits)
科目ナンバリング (Course Number)	LPX2910	言語 (Language)	日本語 (Japanese)
備考 (Notes)	その他登録		

#### 授業の目標 (Course Objectives)

日々生起する様々な国際問題について、国際法の視点から考え、分析できるようになる。

This course aims to acquire the ability to consider and examine various international problems from the perspective of international law.

#### 授業の内容 (Course Contents)

今日の国際社会では日々様々な国際問題(\*)が生じており、それらのうちのほとんどは国際法上の論点を孕んでいる。この演習では、そのような種々の国際問題について、事実関係を踏まえた上で、そこに含まれる国際法上の論点を抽出し、国際法の観点から検討する素地を養う。

各回の具体的な内容は次の通りである。はじめに報告者が、予め自身の関心に基づいて選んだ国際問題につき報告を行う。この報告の後で、司会者の学生による進行のもと、受講者全員で討論を行う。この討論は、受講者全員が前日までに提出するコメントを土台として行われる。

各受講者は、報告者と司会者をそれぞれ一回ずつ担当する。報告する国際問題については、指定テキスト(森川幸一他(編)『国際法で世界がわかる』)の各章から選んでもらう予定である。ただし、この本が扱っていない国際問題に関心がある場合は、独自のテーマを設定しても差し支えない。

\*ここでの「国際問題」とは、典型的には複数国家間の紛争(領土問題、国家間武力紛争など)や、国際社会で協働して対処する必要のある各国共通の問題(地球環境問題など)を指すものの、それ以外にも、例えばある国の国内措置や国内問題のうち、他国や国際機関による、抗議以外の何らかの反応(非難、承認、支援など)を呼び起こすような国際的影響を持つもの(一部地域の独立による新国家の創設、人権問題など)も含める。さらに、「問題」という語感とは馴染まないものの、各国が協働して一定の共通利益を促進する措置も含める(自由貿易の促進など)。

There arise various international problems (\*) on a daily basis in the current international society, most of which hold some aspects of international law. This seminar aims to enhance the ability to find such legal aspects and examine, based on the relevant facts, various international problems from the perspective of international law.

More specifically, in each class, one presenter will make a presentation on the international problem which he/she will have chosen according to his/her interest, followed by a discussion among all the participants under the direction of a facilitator student. This debate will be based on the comments submitted by all the participants by the day before.

Every student will be a presenter and a facilitator at least once for each. They are suggested to choose from the chapters in the designated text an international problem on which they will make a presentation, but they are not prevented from choosing other topics not dealt with in the text if they would like.

\*“An international problem” in this context typically refers to a dispute between States (e.g. territorial disputes or international armed conflicts) or a global issue to be addressed in collaboration by the whole international society (e.g. environmental problems), but also includes a domestic measure or problem that has such an international influence as to provoke some responses other than protest, namely, condemnation, recognition or support etc., from other states or international organizations (e.g. creation of a new State as a result of independence of an area from the original State or human rights problems). In addition, notwithstanding some deviation from the original meaning of the word “problem”, it also includes some collaborative measures to enhance common interests among States (e.g. promotion of free trade).

#### 授業計画 (Course Schedule)

1. イントロダクション、各回のテーマと報告者・司会者の決定
2. 調査方法、発表方法などの解説
3. 報告者による報告と討論①
4. 報告者による報告と討論②
5. 報告者による報告と討論③
6. 報告者による報告と討論④

7. 報告者による報告と討論⑤
8. 報告者による報告と討論⑥
9. 報告者による報告と討論⑦
10. 報告者による報告と討論⑧
11. 報告者による報告と討論⑨
12. 報告者による報告と討論⑩
13. 報告者による報告と討論⑪
14. 報告者による報告と討論⑫・総括

#### 授業時間外(予習・復習等)の学習(Study Required Outside of Class)

##### 【各回の報告者がやること】

自らの選んだ国際問題について、①事実関係、②関連する法規範、③関係当事国(または国際機関)の主張、④自身の見解を含んだレジュメを作成し、報告日の4日前までに Blackboard などを通じて配布する。

##### 【各回の司会者がやること】

関連するテキストの章、報告者のレジュメ、(できれば)全員のコメントに目を通した上で、当日の議論をリードする。

##### 【毎回参加者全員がやること】

関連するテキストの章と報告者のレジュメを読んだ上で、疑問点や報告者に対する賛同・異論などを書いたコメント(A4で半頁から1頁くらい)を、授業日前日の正午までに Blackboard などを通じて提出する。

#### 成績評価方法・基準(Evaluation)

報告内容(50%)/毎回のコメントと議論への参加(30%)/司会進行(20%)

#### テキスト(Textbooks)

1. 森川幸一・森肇志・岩月直樹・藤澤巖・北村朋史(編)、2016年、『国際法で世界がわかる ニュースを読み解く32講』、岩波書店 (ISBN:9784000229555)

※さしあたり購入の必要はない。場合によっては該当する章だけ配布する可能性もある。

※なお、条約集を持参することが望ましい(必ずしも最新版でなくともよい)。例えば、

植木俊哉・中谷和弘(編)『国際条約集(2022年版)』(有斐閣、2022年)  
などがある。

#### 参考文献(Readings)

国際法学の各種教科書。

例えば入門書として、

・松井芳郎『国際法から世界を見る:市民のための国際法入門[第3版]』(東信堂、2011年)

比較的詳しい教科書として、

・杉原高嶺『国際法学講義[第2版]』(2013年、有斐閣)

・酒井啓亘・寺谷広司・西村弓・濱本正太郎『国際法』(2011年、有斐閣)

・小寺彰・岩沢雄司・森田章夫(編)『講義国際法[第2版]』(2010年、有斐閣)

など

#### その他(HP等)(Others(e.g.HP))

<選考方法>

採用人数: 12名前後

配当年次: 1年次

選考方法: レポート

① 題目: (1)本ゼミを選ぶ理由、(2)現時点で自らの報告したい国際問題を1つ選び、その国際問題を選ぶ理由を述べて下さい(授業時には選択する問題を変更しても構いません)。上記のテキストの目次(下記URLを参照)を見て、同書で扱われている国際問題から選択してもよいですし、自身で別のテーマを設定しても構いません。なお「国際問題」の定義は「授業の内容」を参照。

[https://www.u-tokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/C\\_00002.html](https://www.u-tokyo.ac.jp/biblioplaza/ja/C_00002.html)

② 字数: (1)(2)を合わせて、A4で1枚程度

#### 注意事項(Notice)